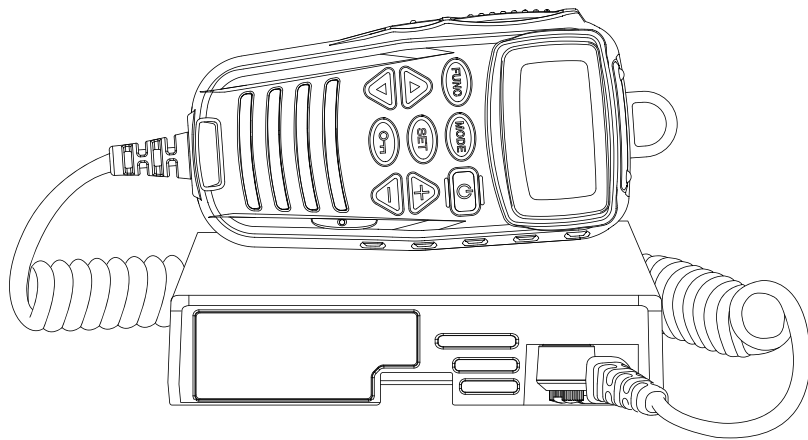


デジタル簡易無線機(総務省技術基準適合品)

無線局種別コード：3R(登録局)

XEDC35M

取扱説明書



<注意>

- ・本製品をご利用になるためには、無線局の登録申請および開設申請をする必要があります。同梱の申請書類をご参照ください。
登録申請手続きをしないで運用されますと不法無線局開設により罰則を受けます。
必ず登録状がお手元に届いたのを確認してからご使用ください。
- ・本製品にはアンテナや電源は付属していません。別途、本製品に対応するものをご購入下さい。

アルインコデータ伝送装置をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本機の性能を十分に発揮させるために、この取扱説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保管しておいてください。また、補足シートや正誤表が入っている場合は、取扱説明書と合わせて保管してください。

本機は日本国内専用モデルです。海外では使用できません。

This product is intended for use only in Japan.

◆◆◆ 安全上のご注意 ◆◆◆

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用前にお読みください。

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損失を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表 示	表示の意味
 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物の損害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号	表示の意味
	△ 記号は、注意（危険・警告含む）を促す内容があることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容が描かれています。
	○ 記号は、行為の禁止であることを告げるものです。 図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。
	● 記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合はACアダプターをコンセントから抜け）が描かれています。

本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因にて通信などの機会を失ったために生じた損害などの純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

! 危険



DCコード接続の際は、極性を間違えないように十分注意してください。火災・感電・故障の原因となります。赤の配線はプラス(+)極、黒の配線はマイナス(-)極です。



この製品の定格電源、電圧はDC13.8VとDC26.4Vでいわゆる12V車と24V車に自動的に対応します。29V以上の電圧が掛かると故障、火災、感電の原因となります。10V以下、15~23V程度の電圧だと電源が入らない、定格通りの出力が出ない、などの不具合の原因となります。



必ず付属の電源ケーブルを使ってください。電源ケーブルを細くしたり、長く配線すると火災・感電・故障の原因となります。



万が一内部からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること。そのままにしておくと、目に傷害が起きることがあります。

! 警告

■使用環境・条件



無線局の登録状の有効期限は5年です。登録状の範囲を超えた運用や登録状を取得しない運用はしないでください。不法無線局となり、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金を課せられます。



分解・改造・修理しないこと。取扱説明書に記載されている場合を除き、ケースなどを外し、内部にふれることはさけてください。火災・感電・けがの原因となります。（改造は電波法違反になります。）



周りに花びんなど、液体の入った容器を置かないこと。液体がこぼれて防浸加工されていない所に水が入ると、火災・感電の原因となります。



本体やコントローラーに水がかかった場合、乾いた布でふきとることをおすすめします。

湿度の高い所や、冷たい所から急に温かい所へ移動しますと、製品に露がつく場合があります。露がつくと製品の動作に悪影響を与え、故障の原因となりますので、よく乾燥させ、露をよく取り除いてからご使用ください。



発熱のため本体の温度が上昇しますので、やけどをしないようにご注意ください。運用直後、本体の放熱部に触れないでください。



電源コードを折り曲げたり、ねじったり、傷つけたり、熱器具に近づけたり、加熱しないでください。故障の原因となります。



DCコードを加工したり、ヒューズホルダーを取り除いて使用することは絶対にしないでください。火災・故障の原因となります。



ぬれた手で電源コードに触れないこと。感電のおそれがありますので絶対にしないでください。



引火性のガスの発生場所では、電源を入れないこと。発火の原因となります。



この製品を使用できるのは、日本国内の陸上のみです。上空、海上や国外では使用できません。



電子機器（特に医療機器）の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。



内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。



航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺、病院内では絶対に使用しないでください（電源も入れないでください）。運行の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたしたり、医療機器が故障・誤動作する原因となります。



この製品を人命救助などの目的で使用して、万一、故障・誤動作などが原因で人命が失われることがあっても、製造元および販売元はその責任を負うものではありません。



この製品どうし、または他の無線機とともに至近距離で複数台使用しないでください。お互いの影響により故障・誤動作・不具合の原因となります。



この製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。



指定以外のオプションや他社のアクセサリ製品を接続しないでください。故障の原因となります。特にアンテナは指定のもの以外を使用すると電波法に違反します。



本機の故障、電波環境や使用場所の状況などから通信できなかったことで発生した、逸失利益に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

■無線機本体の取り扱いについて



無線機は調整済みです。この無線機をユーザーが改造、仕様変更することは法律で禁止されています。



布や布団で覆ったりしないでください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。



後述の説明以外の条件で水をかけたり、水が入ったりしないようにご注意ください。火災・感電・故障の原因となります。



水などでぬれやすい場所（風呂場など）では使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。

■異常時の処置について



以下の場合、すぐ本体の電源をOFFにして、DCケーブルを抜いてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店にご連絡ください。お客様による修理は、法令により禁止されていますので、絶対にお止めください。

- 異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするとき
- 落としたり、ケースを破損したりしたとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- DCケーブルのコードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）



雷が鳴り出したら、屋外での使用時には安全のため本体の電源をOFFにし、DCケーブルを抜いて、ご使用をお控えください。本製品は雷に対する保護や保証は致しておりません。

■保守・点検



本体のケースは、開けないでください。けが・感電・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



注意

■使用環境・条件



テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。



湿度の高い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。



ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりして故障やけがの原因となることがあります。



幼児の手の届くところには置かないこと。けがなど事故の原因となります。



磁気カードなどを近づけないこと。無線機に内蔵されている磁石や磁気を帯びた部品で、フロッピーディスクやキャッシュカードなどの内容が消去される場合があります。



直射日光の強いところや炎天下の車などに長時間放置しないこと。発熱・発火・故障の原因となります。プラスチックやビニールなどが多用されるマイクなどのアクセサリは熱や日光で劣化しますので特にご注意ください。



電子機器に影響を与える場合は使用しないこと。自動車内で使用した場合、車種によりまれに車両電子機器に影響を与えることがあります。そのような場合は使用しないでください。チューナー・テレビなど、他の機器に影響を与えるようなときは、距離を離して設置してください。



本機をハイブリッドカー、電気自動車でご使用になる場合、車両に搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。



防曇ですが、防水ではありません。ぬらさないように心掛けてください。



普通のゴミと一緒に捨てないこと。発火・環境破壊の原因となります。



アンテナ端子には50Ω系の同軸ケーブルを使用して、指定のアンテナを接続してください。同軸ケーブルやアンテナのインピーダンスが異なっていたり、アンテナの調整が不完全なときには、他の電子機器の動作に影響を与える原因となります。



放熱をよくするため、無線機はできるだけ囲わないように設置してください。



車載用としてご使用の場合は、電源コードを車のバッテリー端子に直接接続してください。シガーライターソケットへは接続しないでください。シガーライターソケットは取り出せる電流容量が小さいため、この製品の電源としては不適切な場合があります。



雷に対する保護はなされていません。雷が接近している時や、発生が予想される時は屋外につながるアンテナケーブルや電源コードを無線機から外してください。雷は直撃以外にもこれらのケーブルに高い電圧がかかり故障を起こす原因になります。



隣接して駐車した自動車間での通話など、極端にアンテナ間の距離が近い場合、高出力で送信するとお互いの無線機に悪影響を及ぼすことがあります。極端に近い距離に通話相手がいる時は、お互いにローパワーに切り換えて通話する事をおすすめします。



直射日光があたる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。



調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

■本体の取り扱いについて



長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本体の電源をOFFにして、DCケーブルを抜いてください。



電源コード、コントローラーは無理に引っばったり引き抜いたりしないでください。故障の原因となります。

■保守・点検



お手入れの際は、安全のため必ず本体の電源をOFFにして、DCケーブルを抜いてください。



汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。ベンジン、シンナー、アルコール、洗剤などを使うと外装や文字が変質したり、ショートを誘発して故障する恐れがあります。美観上以外に長く正常にお使いいただくために定期的な清掃は大変有効です。

■耐塵防浸性能について

この製品は、弊社の設計段階で外郭保護等級IP67規格の耐塵防浸試験に合格しており、保護カバー類を正しく閉めるなど指定の条件を満たしていれば、雨や雪、埃っぽい環境の中でもお使いいただけます。但し砂嵐のような風圧や流水のような水圧が掛かる環境下での性能を保証する物ではありません。金属製、油性、酸や塩分・化学物質を含む等、特殊な粉塵や液体の場合は製品に使われている素材や部品に付着して腐食、劣化や故障の原因になりますが、保証の対象外ですのでご了承ください。また、出荷前に個別検査を行わない「相当品」ですので、汚れたり濡れたりした時は埃を払い、乾いた布で拭くなどのメンテナンスを心がけていただくべく永く正常な状態でお使いになれます。保護に使われているカバーやシールドの素材は経年劣化のため変質し、保護性能が低下します。弊社では外郭の保護性能についても製品と同じ一年を保証期間とさせていただきます。尚、耐塵、防浸等の言葉が直感的に分かりにくいことから、カタログや説明書の文中では「防塵」「防水」などの言葉で表現する場合があります。

◆◆◆ 目 次 ◆◆◆

安全上のご注意	2
目次	6
使用前のご注意	7
機能と特長.....	7
1. お使いになる前に	8
付属品の確認	8
電源の接続と設置方法.....	8
2. 本体の名称と動作	11
3. 基本操作	12
4. 通信前のご注意.....	13
5. 便利な機能.....	14
キーロック	14
リセット.....	14
6. セットモード.....	14
セットモード一覧	14
簡易セットモード	15
セットモード	15
7. 保守・参考.....	17
アフターサービスについて	17
8. 定格.....	18

◆◆◆ 使用前のご注意 ◆◆◆

■電波法上のご注意

- ・本機はデジタル簡易無線登録局です。使用するにはあらかじめ、登録・開設申請が必要になります。
- ・本機は日本国内の陸上でのみお使いになれます。海上、上空、海外での使用は違法となり罰せられます。
- ・他人への貸し出しには手続きが必要です。詳しくは管轄の総合通信局におたずねください。

■使用場所により無線機の使用が規制されている場所があります。次のような場所では使用しないでください。
(航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、病院内など)

■本機を分解、改造したり、本体底面に貼り付けてある証明ラベルを剥がして使用することは法律で固く禁じられています。

■高温、多湿、直射日光の当たるところ、ほこりの多い場所は避けてお使いください。劣化を早める原因になります。

■通信の出来る距離は周囲の状況によって大きく異なります。本機に採用されている電波は直進性が高く、間に建物や山等の障害物があると通信できる距離が短くなります。

■海外では法律や周波数の割り当てが異なるため使用できません。
This product is intended for use only in Japan.

◆◆◆ 機能と特長 ◆◆◆

■5W機だからパワフルでデータ伝送エリアがグンと広がります。

■DC-DCコンバータを使わずにそのまま12V/24V車に対応します。

■IP67相当の耐塵防浸で、雨や雪、水まわりの現場などでも安心して使えます。

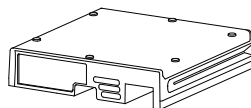
1

お使いになる前に

..... 付属品の確認

本製品には以下のものが付属しています。ご使用前に確認してください。

☐ 本機



☐ コントローラー EMS-75



☐ DC ケーブル UA0086



☐ モービルブラケット



☐ 予備ヒューズ×2個
(5A 125V)



☐ コントローラーハンガー
FM0385



☐ 取り付けネジセット



ネジ

(M5×12)×4個



タップタイトネジ

(M3×8)×2個



タッピングネジ

(M5×20)×4個



六角ナット

(M5)×4個



スプリング

ワッシャー×4個



平ワッシャー

×4個

☐ 防水カバーセット(ネジ2個付き)

☐ 取扱説明書(本書)

☐ 申請書類一式

☐ 保証書

注意 保証書に購入の日付が記載されていないときは、レシートを保証書と一緒に保管してください。ご購入日が証明できる書類が無いと保証サービスは無効となりますのでご注意ください。

弊社純正、または弊社が認めたアクセサリ以外をご使用になって起きた不具合は保証期間の有無を問わず有償修理になります。他の無線機メーカー製オプション品が使えるかどうかは検証していないので、ご使用は推奨できません。アクセサリ専門メーカーの製品であれば、そのメーカーにお問い合わせください。

..... 電源の接続と設置方法

本機の設置や取り付けには、プラスドライバーなどの簡単な工具が必要です。設置を始める前に本章をお読みの上、必要に応じた工具をご用意ください。

通話距離について

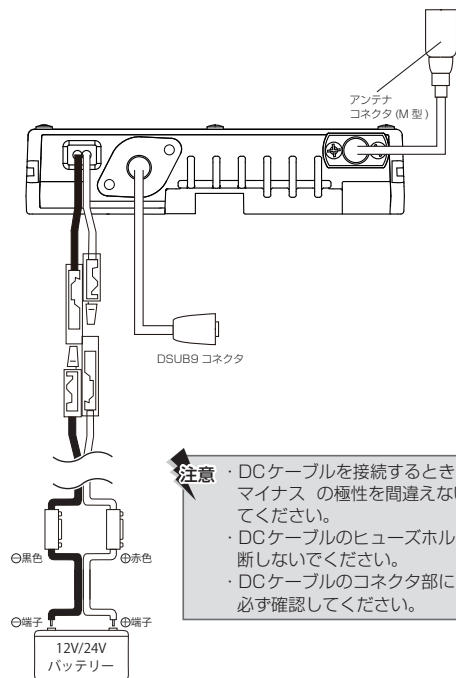
・本機は使用するアンテナの種類、アンテナの設置場所、高さ、使用する同軸ケーブルの種類や長さによって通話できる距離に大きな差が出るため定量的には言えませんが、数kmから数十kmの範囲が目安です。

■電源・アンテナの接続

電源は車のバッテリー(12/24V)に、直接付属のDCケーブルで接続して下さい。

リアパネル右上のアンテナケーブル先のコネクタにアンテナの同軸ケーブルを接続しリングネジを締めます。

本機のアンテナコネクタは汎用性が高く、使いやすいインチ・ミリ両用(M/PL)タイプを採用しています。専用のものに比べて嵌め合いに遊びが多く感じられますが、異常ではありません。



注意 ・DCケーブルを接続するときは⓪プラスと⓪マイナスの極性を間違えないように注意してください。
・DCケーブルのヒューズホルダーを絶対に切断しないでください。
・DCケーブルのコネクタ部にゆるみがないか必ず確認してください。

注意 ・本機の出カインピーダンスは50Ωです。アンテナ、同軸ケーブル、無線機間のインピーダンスが異なると、送信出力低下による故障の原因や、他の電子機器(テレビなど)の動作に影響を与えることがあります。

■モバイル(自動車)で運用する場合

モバイル(自動車)運用では、なによりも安全運転を優先してください。次の手順に従って、接続してください。

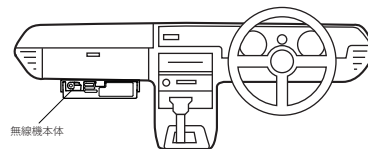
●取り付け場所

車種によりレイアウトは異なりますが、操作性、安全運転の面から最適と思われる場所を選んでください。

次のような場所は避けてください。

- ・ひざが本機にあたる場所やエアバッグの動作に支障のある場所
- ・直接振動が伝わる場所
- ・カーヒータの吹き出し口など、車内温度が高くなる場所
- ・マイクがハンドルなどに引っかかるような場所

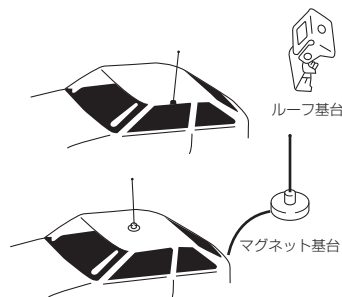
注意 ・ETCやカーナビなど電子機器からなるべく離して設置してください。



■モバイルアンテナの取り付け

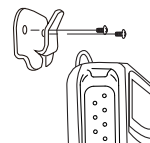
DCRの規格に準拠して製造された、市販のアンテナを使って、モバイルアンテナを車に取り付けます。走行中に脱落することがないように、しっかりと固定してください。

アンテナの同軸ケーブルを、本機に接続します。接続については(図P,9)を参照してください。



■コントローラーハンガーの取り付け

コントローラーハンガーは右図のように、タップタイトネジ(M3×8mm)×2をプラスドライバーでしめて取り付けます。

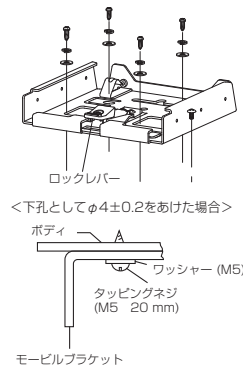


注意 ・直射日光が当たる場所はさけてください。夏の日射しが液晶部に当たると一時的に画面が黒くなり見えなくなります。冷却すると元に戻ります。また、直射日光はプラスチックの様な外観部品を劣化させる原因になります。
・設置や取り付けに使用するネジは、付属または指定のものをお使いください。長すぎると機器内部のショート、短すぎると取り付け不安定となり、コントローラーが落下してディスプレイ部が割れるなどの故障の原因となります。

■自動車への取り付け

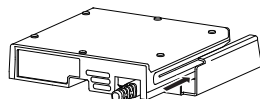
ここでは、グローブボックス下に取り付ける場合について説明します。

モバイルブラケットをグローブボックス下の適切な位置に取り付けます。付属のワッシャー(4個)とタッピングネジ(4本)で取り付けてください。



モバイルブラケットのガイド部分に、本機側面にある溝を合わせ、カチッと鳴るまでスライドさせて固定します。

本機を取りはずすときは、モバイルブラケット上のロックレバーを押しながら、本機を手前にスライドさせてください。

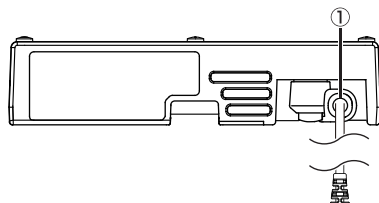


注意 コントローラーを持って強く引っ張らないでください。本体が飛び出しケガをする可能性があります。

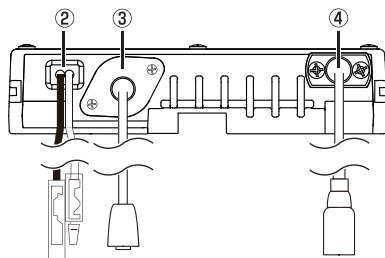
2

本体の名称と動作

■フロントパネル

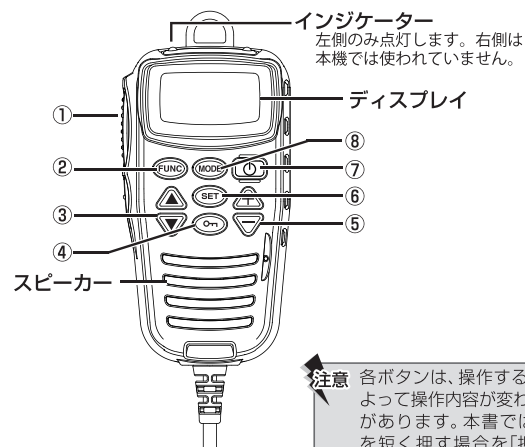


■リアパネル



No.	名称	機能
①	コントローラー	付属のコントローラー (EMS-75) が接続されています。
②	DC電源コード	DC電源を接続します。
③	DSUB9コネクタ	DSUB9データ端子です。
④	アンテナコネクタ	DCRの規格に準拠して製造された市販のアンテナ (インピーダンス 50Ω) を接続してください。)

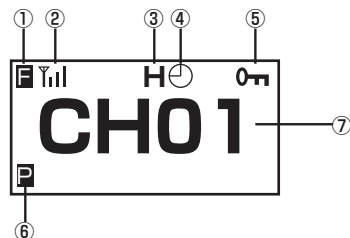
■コントローラー (EMS-75)



注意 各ボタンは、操作する時間によって操作内容が変わる場合があります。本書では、キーを短く押す場合を「押す、押し」、1秒以上押し続ける場合を「長押し」と表記しています。

No.	名称	機能
①	キャンセルキー	押すと各種設定画面からチャンネル表示画面に戻ります。
②	FUNCキー	「FUNC」キーを押すと  が点灯して FUNC モードになります。
③	▲/▼キー	チャンネル・各設定値・設定項目のUP/DOWN
④	On キー	長押しするとキーロック (P.14) が動作します。
⑤	+/- キー	送信出力を切り換えます。
⑥	SET キー	各設定値が点滅して、変更可能となります。
⑦	⏻ [POWER] キー	長押しすると電源を ON/OFF します。
⑧	MODE キー	設定値変更時の桁移動に使用します。

■ディスプレイ表示



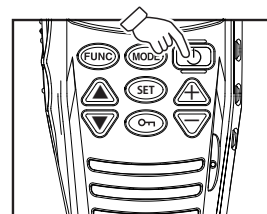
説 明		
①		「FUNC」キーを押したとき点灯します。
②		受信した電波のレベルに応じて三段階に点灯します。
③	H/M/L	送信時の出力設定を表示します。
④		オートパワーオフ機能動作時(☞P.16)に点灯します。
⑤		キーロック動作時(☞P.14)に点灯します。
⑥		データパケットの送信中は点灯、受信中は点滅します。
⑦	CH01	送信・受信チャンネル番号や各設定内容を表示します。

3

基本操作

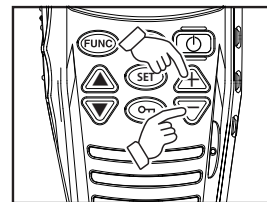
■電源を入れる

○[POWER]キーを長押しすると電源が入ります。
電源を切るときも同じ操作をします。



■送信出力を設定する

「+」キーまたは「-」キーを押して送信出力を設定します。
H : 送信出力 5W
M : 送信出力 2W
L : 送信出力 1W



■チャンネルを合わせる

「▲」キーまたは「▼」キーを押してCH01～CH30を選択します。
キーを押している間連続してチャンネルが切替わります。



■受信する

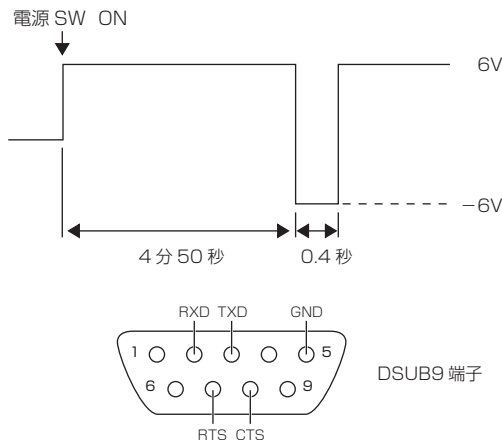
信号を受信すると、インジケータが緑に点灯し、受信した信号レベルに応じてディスプレイのアンテナアイコンが表示されます。
アンテナのバーの数が多いほど、強い信号を受信していることを示します。

■送信する

DSUB9 コネクタにパケットデータが入力されると、自動で送信状態となります。

セットモードにて、フロー制御有とフロー制御無の選択ができます。
フロー制御有の場合は、4分50秒後にGPS受信機からの制御により送信を一時停止します。その後キャリアセンスし、使用するチャンネルと同一の電波がないかを確認をおこない、約0.4秒後に送信を再開します。
フロー制御無の場合は、連続送信5分で自動的に送信を停止し、一分休止後送信を再開します。

自動送信フロー制御有時のRTS出力信号は下図のようになります。



RXD にパケットデータが入力されると送信状態となります。

4

通信前のご注意

本機には電波法に基づく下記の制限が設けられています。

キャリアセンス

一定の強さ以上の信号を受信しているときは、送信できません。
通信中の人に妨害を与えないために設けられています。
もしこの状態で送信すると、ディスプレイに「電波チェック」と表示されます。

送信時間制限装置

1回の送信で連続して送信できる時間は、「5分以内」と電波法で定められています。
連続した送信が5分を超えそうになると自動的に送信を停止しその後1分間は送信できなくなります。
チャンネルの独占や無駄な送信を防いでなるべく多くの人がチャンネルを共有して使えるようにするために設けられています。

5

便利な機能

..... キーロック

使用時に誤ってキーが操作されることを防ぐ機能です。「」キーを2秒以上押すとキーロックが設定され、ディスプレイに「鍵アイコン」が点灯します。キーロック時、電源のON/OFFの操作のみが可能です。キーロックを解除するときにはもう一度「」キーを2秒以上押して「鍵アイコン」を消してください。



..... リセット

一度電源を切り「FUNC」キー「」キーを押しながら電源を入れると「RESET」が表示され、そこから再度「SET」キーを押すとご購入時の初期状態になります。



6

セットモード

..... セットモード一覧

■簡易セットモード

項 目	表示項目	初期値	設定値	参照
スケルチ調整	スケルチ	2	1～9	P.15
ビープ音量設定	ビープ音量設定	2	OFF/1～4	P.15

■セットモード

項 目	表示項目	初期値	設定値	参照
ユーザーコードの設定	ユーザーコード	000	000～511	P.15
送信開始設定	送信開始設定	自動 (フロー制御有)	自動(フロー制御有)/ 自動(フロー制御無)	P.15
送信制限警告音	送信制限警告音	ON	OFF/ON	P.15
オートパワーオフ	APO	OFF	OFF/30分/1～6時間	P.16
コントラスト設定	コントラスト	8	1～10	P.16
照明設定	照明設定	5秒	消灯/5・10・20・30/常灯	P.16
明るさ設定	明るさ	標準	暗い/標準/明るい	P.16
オートスキャン	オートスキャン	OFF	OFF/ON	P.16
受信モード設定	受信専用	OFF	OFF/ON	P.16
RSSI端子の電圧	RSSI端子の電圧を	表示しない	表示しない/表示する	P.17
RS232C通信速度	RS232C通信速度	38400	9600～115200	P.17

簡易セットモード

●簡易セットモードの設定方法

- ①「FUNC」キーを押した後アイコンが表示されている間に「MODE」キーを押して簡易セットモードに入ります。
- ②「▲」・「▼」キーを押して設定したい項目に合わせます。
- ③「SET」キーを押して設定値を点滅させて「▲」・「▼」キーで設定内容を変更します。
- ④もう一度「SET」キーを押して設定内容の点滅を止めると設定が決定します。
- ⑤「キャンセル」キーを押すと簡易セットモードからデータ伝送ができる状態に戻ります。

■スケルチ調整

信号の強さによって受信ができるレベルを設定できます。

スケルチレベルは1～9の間で設定できます。例えば、弱い信号を受信したい時はレベルを低く、逆に強い信号の局としか通話したくない時は高めにレベルを設定します。

スケルチ
2

■ビーブ音量設定

ビーブ音の音量を調節することができます。

ビーブ音量は1(小)⇔4(大)で設定できOFFにすると鳴らなくなります。但し、警告音は設定がOFFでも最小の音量で鳴ります。

ビープ 音量設定
2

セットモード

●セットモードの設定方法

- ①一度電源を切り「SET」キーを押しながら電源を入るとセットモードに入ります。(ディスプレイに「SET MODE」と約2秒間表示されます。)
- ②「▲」・「▼」キーを押して設定したい項目に合わせます。
- ③「SET」キーを押して設定値を点滅させて「▲」・「▼」キーで設定内容を変更します。(設定値の桁数が多いときは、設定値が点滅中に「MODE」キーを押すと、桁移動することができます。)
- ④もう一度「SET」キーを押して設定内容の点滅を止めると設定が決定します。
- ⑤「キャンセル」キーを押すとセットモードからデータ伝送ができる状態に戻ります。

SET MODE

■ユーザーコードの設定

チャンネルが同じでもユーザーコードが一致しないと通信ができません。「000～511」の中から選択できます。通信したいグループすべてを同じコードに設定してください。初期値「000」はどのコードでも受信可能です。

ユーザーコード
000

■送信開始設定

DSUB9コネクタにデータが入力された場合の自動送信をフロー制御有りが無しかを選択できます。

送信開始設定
自動(フロー制御有)

自動(フロー制御有)/自動(フロー制御無)

■送信制限警告音

送信時間制限装置 (P.13) による、「5分間」の連続送信時間に近づいたことを警告音を鳴らして知らせる機能です。

送信終了30秒前「ピピピ」
送信終了5秒前「ピー」

OFF : 警告音を鳴らさない
ON : 警告音を鳴らす

注意 送信時間制限装置が動作すると強制的に受信状態となり、その後1分間は送信できません。

送信制限警告
ON

■オートパワーオフ

自動電源オフ (Auto Power Off) 設定した時間、全くキーを操作しないとビーブ音が鳴り自動的に電源が切れます。OFF/30分/1～6時間から選択できます。

APO
30分



■コントラスト

ディスプレイ文字の濃さを1～10の間で調節できます。

コントラスト
8

■照明設定

ディスプレイの照明の設定です。消灯/5・10・20・30秒/常灯から選択できます。タイマー(秒)を選ぶと、キー操作後設定した時間が経つか、PTTを押すと消灯します。

照明設定
5秒

■明るさ設定

本機はディスプレイ照明の明るさを、暗い/標準/明るいの3段階で調整することができます。

明るさ
標準

■オートスキャン

設定チャンネルが他局に使用されているとき、自動で空きチャンネルに切り替わる機能です。オートスキャンをONにするとスキャンを開始します。

送信側にGPSデータが入力されると空きチャンネルでスキャンが停止して送信状態になります。受信側はそのGPSデータを受信すると送信側と同じチャンネルでスキャンが停止し、GPSデータの受信を開始します。送信側は、GPSデータの入力がなくなると5秒後にスキャンを開始、受信側はGPSデータがなくなると10秒後にスキャンを開始します。

スキャンチャンネルは4チャンネルのみで、現在表示されているチャンネルが白抜き表示となりスキャンのスタートチャンネルとなります。

(例) CH01からスタートした場合: CH01→CH02→CH03→CH04→CH01・・・
CH30からスタートした場合: CH30→CH01→CH02→CH03→CH30・・・

同じ操作でオートスキャンをOFFにするとスキャンは止まります。

■受信モード設定

本機を受信専用で使用する場合に、送信を禁止する機能です。DSUB9コネクタにパケットデータが入力されても送信しません。ディスプレイに「受信専用モード」が点灯します。

CH01
受信専用モード

ON : 受信専用

■RSSI端子の電圧

受信する信号の強度（目安）を電圧表示させることができます。
（約0.5V～約2.0V の範囲）
強い信号ほど電圧値が高くなります。
ディスプレイに「*.*V」が表示されます。

RSSI端子の電圧を
表示しない

■RS232C通信速度

ご使用の環境に応じてシリアル通信速度を変更することができます。
「9600,14400, 19200, 28800, 38400, 57600, 115200」の中から選択できます。

RS232C通信速度
38400bps

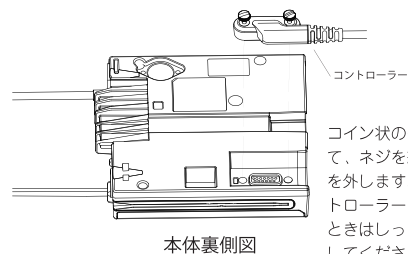
初期値 38400bps

7

保守・参考

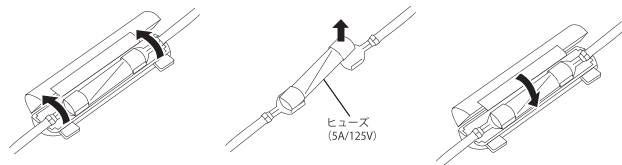
■コントローラーの取り付け

コントローラーは下図のように取り付けます。



■ヒューズの交換

付属のDCケーブルはヒューズ(5A/125V)が2本使われています。ヒューズが切れて電源が入らなくなったときは、不具合の原因を取り除いたあと下図のようにヒューズを取り換えてください。



注意：スペアヒューズ(5A/125V)をお使いください。
指定外のヒューズの使用は製品の保証対象外となります。

アフターサービスについて

■保証書

保証書は、所定事項（ご購入店名、ご購入日）への記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。ご購入時の記載、またはご購入の日付を証明するレシート等の書類が無い場合は無効となりますので充分ご注意ください。

■保証期間

お買い上げの日より1年間です。

正常な使用状態で上記の期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に有効な保証書を添えて、お買い上げいただいた販売店へご相談ください。保証書の規定にしたがって修理いたします。

■保証期間が経過した場合

お買い上げいただいた販売店へご相談ください。

修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有償で修理いたします。

アフターサービスについてご不明な点がございましたら、お買い上げいただいた販売店へご相談ください。

■製造終了製品に対する保守年限に関して

弊社では製造終了後も下記の期間、製品をお使い頂けるように最低限必要な補修用部品を常備しています。但し不測・不可抗力の事態により在庫部品に異常が発生したような場合はアフターサービスをご提供できなくなることもありますので、あらかじめご了承ください。

補修部品の保有期間は、生産終了後**5年**です。

8

定 格

■一般仕様

周波数	351.20000~351.38125MHz 30ch
電波型式	F1C F1D F1F
アンテナインピーダンス	50Ω
定格電圧	11.0~15.2Vまたは、22.0~29.0V
消費電流	1.7A以下(送信時:5W) 1.1A以下(送信時:2W) 0.9A以下(送信時:1W) 600mA以下(受信時) 30mA以下(電源OFF時)
外形寸法(本体突起物除く) W×H×D	125.0×28.0×130.0mm
重量(EMS-75装着時)	約900g
使用温度範囲	-20℃~+60℃

■送信部

送信出力	5W/2W/1W(偏差: +20%、-50%)
変調方式	4値FSK
周波数偏差	±1.5ppm
占有周波数帯幅	5.8KHz以下
最大周波数偏移	±1324Hz以内
スプリアス発射強度	2.5uW以下

■受信部

受信感度	-6dBu(BER 1×10 ⁻²)
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
副次的に発する電波などの強度	4nW以下

■仕様・定格は予告なく変更する場合があります。

■本書の説明用イラストは、実物とは状態や形状が異なる、一部の表示を省略している、等の場合があります。

■本書の内容の一部、または全部を無断転載することは禁止されています。乱丁・落丁はお取り替え致します。